



新年度予算



平成31年度（2019年度）の一般会計と特別会計及び企業会計の当初予算案と関連条例は、議長を除く12名で構成する「平成31年度 予算審査特別委員会（桜井崇裕委員長）」を設置し、審査を行いました。

町政全般にわたる数多くの質疑の中から、いくつかお知らせします。

廃屋解体事業を 住居以外へ拡充する考えは

【鈴木孝寿 委員】
質疑 住居以外の事業用資産の廃屋に対しても解体費補助を行うなど、拡大の考えはないか。

答弁 現在は、住居を対象としているが、市街地の景観保持、防犯、倒壊の危険など総合的に考え、対象を拡大するか検討していく。

子ども1110番制度が 理解される取り組みを

【山下清美 委員】
質疑 子ども1110番制度の仕組みや役割が、子どもや保護者を含め、地域全体に周知が徹底されていないのではないか。

答弁 現在100件の以上の家にとこの制度の役割を担っている。子どもに安全を守るために、広く周知を図っていく。

賃貸住宅建設補助金は 既存事業者の経営を圧迫しないか

【佐藤幸一 委員】
質疑 世帯向けの住宅は不足しているのか。新築物件への転居により、既存の借家が空き家とならないか。

答弁 移住相談を受けても世帯向けの住宅が見つからない。既存の世帯向け賃貸住宅に対しては改修費の助成を新たに言い、町外からの通勤者の転入促進を図るとともに新婚世帯などの転出を抑制する。

特定健診の受診率向上対策は

【口田邦男 委員】
質疑 本町の特定健診受診率は管内でも低い状態が続いているが、どのような対策を講じているのか。

答弁 と依然として低い状況である。保健師等が家庭訪問するなどし、生活習慣病等の早期発見・早期治療の大切さを理解してもらえよう、引き続き周知していく。

多面的機能支払事業の支援策は

【深沼達生 委員】
質疑 農地環境保全対策に農村部の11地区で取り組んでいるが、高齢化や担い手不足により、活動の停滞が危惧されるが対策はあるか。

答弁 農地や水路等の良好な環境を保つために有効な補助制度であり、地域の声を聞きながら、できるだけ活動しやすいよう支援を行っていく。

文化センターに 指定管理者制度導入の考えは

【川上均 委員】
質疑 文化センターの改修に伴い、舞台装置等の操作も難しくなったことだが、将来的に指定管理者制度の導入の考えはあるのか。

答弁 現在は、舞台装置の操作は職員が担い、一部委託している。今後、指定管理者制度の導入に向け、検討していく。

ふるさとワーキングホリデー推進事業 導入の効果は

【高橋政悦 委員】
質疑 国の制度を活用し、都市部の若者を受け入れたが、もともと町の良さを積極的にアピールする姿勢が必要ではないか。

答弁 道外都市部の若者が一定期間町内で働き、暮らし体験をした。数年後に清水町を移住先の選択肢の一つとして良い印象を持ってもらえるよう取り組んでいく。

防災無線の受信機を 全戸へ配布するが、活用方法は

【西山輝和 委員】
質疑 防災無線の屋外スピーカーの更新と戸別受信機の新たな整備で予算を計上しているが、非常時の避難情報等の利用に限るのか。

答弁 戸別受信機は全世帯へ無償で貸付を行う。非常時は気象情報や避難情報を送るほか、機器の受信状況の確認を兼ねて、平常時にも行政情報の放送を定期的に行う。



清水公園を どのように再整備するのか

【中島里司 委員】
質疑 清水公園近くの町有地も活用して、一体的に整備することも検討してはどうか。

答弁 新たに検討委員会を設置し、町民の意見を聞きながら基本構想を策定する。清水公園、体育館及びペケレの森のエリア、さらに既存の町有地を調査した上で、町内外の方が訪れる場所になるよう整備の検討をする。

部活バス利用者の 降車場所の見直しはできないか

【奥秋康子 委員】
質疑 部活バスの降車場所は限られており、数キロ先の自宅まで徒歩で帰る生徒もいる。登校時の乗車場所と同様の場所で降車できるようにならないか。

答弁 中学校の部活は終了後のバスは委託運行している。運転手の勤務時間等の問題もあるが、可能な限り通常の停留所で降車できるように検討する。

